

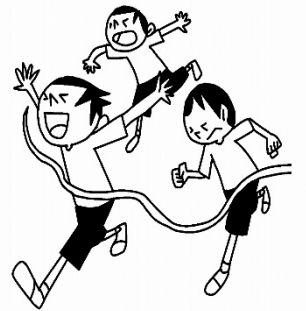


克己

第58号

発行日
平成30年12月21日

発行
天城中学校 PTA
編集 広報委員会



学び続けることの大切さ

校長 日吉 隆徳

全国で年間約六万人の方が心臓異常によって亡くなっているというショッキングな事実。今年の家庭教育学級は、AED講習会を行いました。十数名の保護者と三年生を対象に実施しましたが、わたしたち教員にとっても大切な研修になりました。

数年前、埼玉の小学校で一人の少女が倒れ、そのときの少女の状態が「死戦期呼吸」というものでした。すぐに胸骨圧迫（心臓マッサージ）が必要な状態でしたが、その時の呼吸が正常なものでないことを誰も見抜けず、AEDは使われないままその少女は亡くなってしまいました。

この教訓をもとに、埼玉ではASUKAモデルというマニュアルをつくり、小学生から高校生まで、AEDの講習会を受講する仕組みを作ったそうです。

わたしは、過去に何度かこうした講習会を経験してきましたが、「死戦期呼吸」という言葉を聞いたのは今回が初めてでした。

もし、自分の目の前で埼玉の事例と同じことが起こったら、適切に判断し、行動するこ

とができたでしょうか。今回のように最新の知識を学ぶ機会がなかったら、最悪の結果になっていたかもしれない。そう思ったとき、はたと気づくことがあります。

それは、「学び続けることの大切さ」です。知っている、経験したことがあると高をくくりに、最新の情報を学んでいかなかったら、間違った判断をしてしまう危険があるということ。そんなことからでも学ぼうとする姿勢が大切なのだと思います。

今年、各地で大きな災害が相次ぎました。スーパードランティアとして一躍注目を集めた尾畠春夫さんも、日々ボランティアを続ける中で、学び続けている人の一人だと思えます。幼い子どもの命を救うことができたのも、豊富な経験から得た学びが役立つのだと思います。

学校では、子どもたちに指導する一方で、子どもたちから学ぶことがたくさんあります。わたしも、学び続ける教員でありたいと思います。

